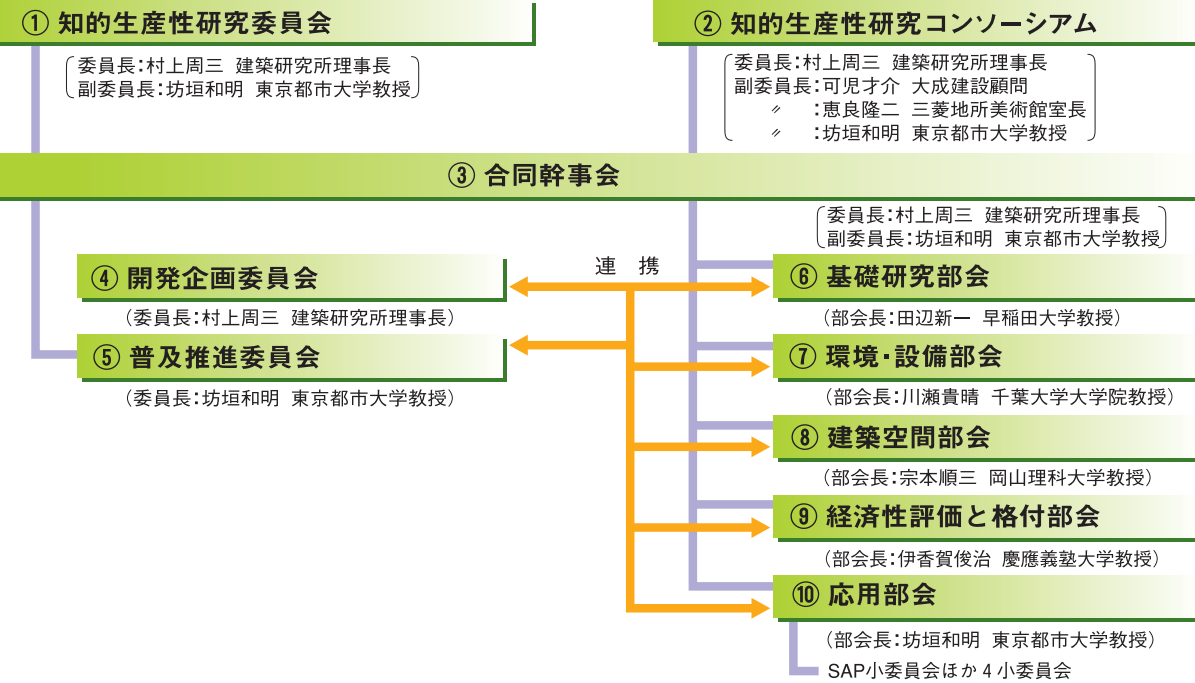


知的生産性研究コンソーシアム 参加のご案内

知的生産性研究の検討体制(案)



※ SAPIについて

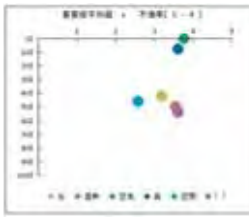
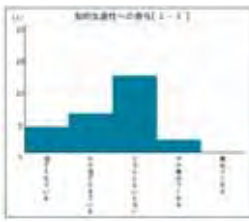
これまでの活動成果の一つとしてSAP2009(オフィス)の開発をあげることができま

SAPは建物の知的生産性を利用者の評価を通して主観的に測定するためのツールで、Subjective Assessment of Workplace Productivityの頭文字からとった名称です。建物の知的生産性にかかわる性能を「見える化」することを目指して開発を進め、まずオフィスについて、Webベースで評価できるシステムを開発しました。

SAPは評価ツールのひとつですが、研究者・設計者、建物利用者、経営層間のコミュニケーションツールとしてもご活用頂けると考えています。

オフィスの移転や建物の改修時にその効果を確認したり、複数の施設で知的生産性という視点で性能を比較したり、建物や設備の劣化や運用の変化に伴う知的生産性への影響を把握するための定期的調査にご利用いただけます。

このシステムは一般に公開され、評価結果はグラフなどを使って分かりやすい形でフィードバックされますが、コンソーシアムの会員には他のビルとの比較情報などより多くの分析結果が提供されます。



SAPホームページ: <http://www.jsbc.or.jp>

関連書籍のご案内



「建築と知的生産性
—知恵を創造する建築—」
2,052円
ISBN978-4-903476-34-6

「誰でもできる
オフィスの知的生産性測定
SAP入門」
1,524円
ISBN978-4-903476-35-3

編著: (財)建築環境・省エネルギー機構
協力: 知的生産性コンソーシアム、知的生産性研究委員会
発行: (株)テツアドー出版 (tel: 03-3228-3401)

入会案内

本研究にご参加いただけますと、企業単位では入手困難な新しい課題等について最新情報を得られるとともに、建築分野における知的生産性に関する計画手法や、評価・格付け手法について参加される方のご意見が反映できるものと考えております。つきましては、今後の建築分野の本研究の重要性にご理解をいただき、本コンソーシアムに是非とも参画いただきたく、ご案内申し上げます。

- 【名 称】 知的生産性研究コンソーシアム
- 【会 費】 参加費: 735,000円/年、社(税込み)
- 【入会方法】 下記までお電話、メール等で直接お問い合わせ下さい。
- 【事 務 局】 一般社団法人 日本サステナブル建築協会
〒102-0083 東京都千代田区麹町3-5-1 全共連ビル麹町館2階
TEL: 03-3222-6693 FAX: 03-3222-6100
E-mail: chiteki@ibec.or.jp

「研究の趣旨・経緯」

人口減少・少子化・高齢化の急速な進展、知識社会・情報化社会への転換、地球の持続可能性を脅かす脅威の増大などが大きな課題となっている現在、従来型の発想やこれにもとづく対応から、近未来の新しい社会の実現に向けて、パラダイムシフトとそれを可能とするイノベーションが必要と考えられます。政府の長期戦略指針「イノベーション25」（平成19年6月1日閣議決定）においても指摘されているように、このような課題を解決する一つの手段として「生産性の向上」があげられます。とりわけ知識社会への転換が急がれる中で、新しい社会において求められる重要なパラダイムは知的生産性の向上です。これを受けて国土交通省住宅局では、知的生産に適した建築を実現することを目的に、建築学、設備工学、環境学のみならず、情報、エネルギー、医学、経済などの広範な分野の方々に参加を求め、「知的生産性研究委員会」（委員長村上周三、(独)建築研究所理事長）を組織し、研究を進めているところです。

この研究では、建築分野における内外の知的生産性研究に係るデータベースの構築や知的生産性の向上に資する計画手法、評価・格付け手法の開発等を行うことを目的としています。既に、平成19年度からの3ヶ年で多くの調査研究を実施してきたところです。この目的を達成するために国設置の上記委員会では学術的・基礎的研究を行うこととされており、併せて様々な分野の民間企業等の参画を得て「知的生産性研究コンソーシアム」を組織し、国の支援も得つつ、応用研究・技術開発等を行い、両組織の連携・共同のもとに、より効果的に成果を上げることとしています。

委員長あいさつ

脱物質化に向けて知識社会への移行の重要性が指摘される中、知的生産性の向上によるナレッジエコノミーの活性化が求められています。この観点から、知識社会に適合するワークプレイス（空間と環境）を提供することは、建築分野の重要な責務であると言えます。そのための、建築・環境設計におけるイノベーションの実現に向けた、分野横断的な研究が求められます。

シックビル問題などの研究を契機として、ナレッジワーカーの知的生産性に関する各種研究が実施されるようになってきました。その成果として、知的生産性の向上のための投資による居住環境・ワークプレイスの改善が、経営者にとっても、ワーカーにとっても大きな恩恵をもたらすものであることが広く知られるようになってきました。

知的生産性向上の基盤を整えることは、日本社会にとって極めて重要です。また知識社会への移行は、地球環境問題の緩和や各種産業の振興、ニュービジネスの創生など、幅広い波及効果をもたらすと期待されています。

知的生産性研究コンソーシアムは、このような目的達成のための具体的技術・手法を開発・整備するために設けられたものであり、民間からの積極的な参画をお願いする次第です。



【活動内容】

【活動方針と目的】

建築分野を中心とした内外の知的生産性に関する調査研究をベースとして、知的生産性向上に資する計画手法、評価・格付け手法の開発等を行う。国の支援を得つつ、学術的・基礎的研究から、応用研究、技術開発まで、幅広い取り組みにより具体的な成果を上げる。

【研究内容】

- 1) 居住環境（物理、心理、生理の側面）と知的生産性に関する研究
- 2) 空間の性能・品質やこれを利用する組織形態と知的生産性に関する研究
- 3) 知的生産性の測定方法、評価方法に関する研究
- 4) 知的生産性向上をもたらすナレッジ・ワーカーの創発性を刺激する建築・環境設計手法の開発
- 5) 知的生産性の向上がもたらす環境負荷軽減効果や経済効果に関する研究
- 6) 行政支援ツールにおける知的生産性評価の導入の検討（例えば、総合環境評価ツールCASBEEへの知的生産性視点の導入）など

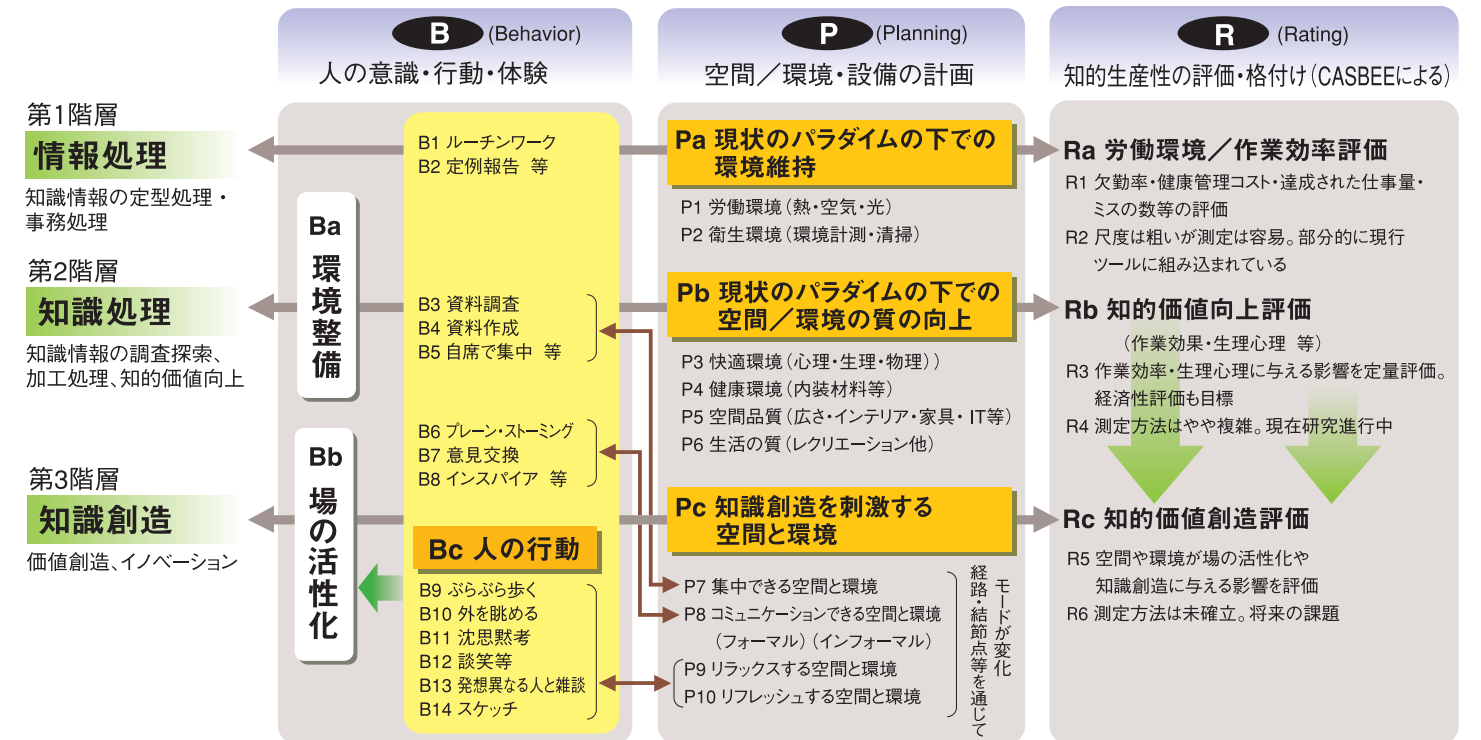
【期間】 2010年度～2012年度（予定）

【進め方】 「知的生産性研究委員会」における学術的・基礎的研究と併行、連携して、学識経験者、民間企業等による「知的生産性コンソーシアム」を組織し、部会等を設けて具体的検討・開発を行う。

知的活動と建築空間の階層モデル

これまでの活動を通し、知的生産性の概念の共有と見える化を目指してモデルを検討してきました。

建築空間と知的活動の階層モデル



知的活動は3階層で構成されると考え、意識・行動・体験 (Behavior)、計画 (Planning)、評価・格付け (Rating) の各分野における3階層の関連・位置づけを示したモデルです。

研究ロードマップ (2010～2012年)

知的生産性研究委員会 最終達成目標に向けた研究ロードマップ (2010～2012年) (案)

(年度)	(I) 2010	(II) 2011	(III) 2011年までの達成目標 (統合作業へ向けた具体的成果)	(IV) 2012
知的生産性研究委員会	[1] 基礎研究部会 ① 先端学術情報の収集 ② クラウド型調査手法の開発 ③ 室内環境測定方法の整理 ④ 先駆的事例調査	⑤ 先端学術情報の整理・分析 ⑥ 調査結果の格付け方法の策定 ⑦ 室内環境基準と格付け方法の策定 ⑧ 先駆的事例調査	a. 第1期に加えた最新情報の蓄積 b. クラウド型調査手法の確立 c. 物理環境の計測手法の整理と評価 d. 第一期で開発した手法を用いた実例提示	最終達成目標 モデルオフィスの設計・実現 設計指針(ガイドライン)の策定
	[2] 環境・設備部会 ① 文献データベースのWEB化検討 ② SAP調査データの充実 ③ 優良事例収集 ④ 評価手法の検討	⑤ WEBデータベース作成 ⑥ SAP調査結果による事例集作成 ⑦ ガイドライン案作成 ⑧ 優良事例の評価・表彰制度検討	a. WEBデータベース b. SAP調査事例集発行 c. ガイドライン作成 d. 表彰制度試行	
	[3] 建築空間部会 ① 計画要件の整理 ② ワークスタイルの収集・分析 ③ 設計事例の調査・蓄積	④ 設計指針の素案作成 ⑤ ワークスタイルに基づいたワークプレイスのあり方 ⑥ 設計事例の調査・蓄積・データベース共有化	a. 設計指針の作成 b. ワークスタイルに基づいたワークプレイス c. マネジメント支援	
	[4] 経済性評価格付け部会 ① 実際のオフィスを対象としたケーススタディ ② 客観指標と評価指標の相関分析 ③ 執務者へのアンケート(継続) ④ 総務担当者へのアンケート(継続)	⑤ スタディを受けた評価指標の改善 ⑥ CASBEEへの具体的な組み込み検討 ⑦ 評価手法の活用方法に関する検討	a. 建築物の知的生産性評価方法の確立 b. 知的生産性評価の経済性評価方法の確立 c. CASBEE評価への組み込み方法検討	
	[5] 応用部会 ① 普及・維持方針検討 ② CASBEEおよびビル管理等の連携可能性の検討(ケース整理) ③ オフィス執務室以外へのSAP展開の検討(ビル全体等)	④ 普及・維持対策具体化 ⑤ 連携手法の提案 ⑥ 他用途SAP試作と試行	a. SAPシステムの広範な普及	
	[6] 環境部会 ① EBD文献の精査と関連性の検討 ② AIA (US)とHBN (英国)の検討 ③ デザインスタンダードの検討	④ 適応範囲の拡張 ⑤ EBDとサステナビリティ	a. 医療環境における「生産性」概念の確立 b. 「生産性」と環境との関連に関するコンセンサスの確立 c. スペースごとのモデル提示	
	[7] 普及推進委員会	企画ガイドラインとりまとめ 知的オフィス アイデアコンペ 第6回 シンポジウム 11月頃	知的オフィス 実物件表彰(試行) 第7回 シンポジウム 11月頃	
産学官による知的生産性コンソーシアムの運営				

